

運送業界においては、昨今の運行記録計等の技術の急速な発展、運行管理の多様化、コスト負担などの観点から、各社の企業努力において取り組んでいる事例がみられる。

A社【業態：一般貨物自動車運送事業】

■従業員数：29名 ■保有車両数：17台 ■資本金：1,000万円

①運行管理の高度化に向けた取組

- 全車両に通信機能を有したデジタル式運行記録計、ドライブレコーダーを搭載(2000年～デジタル式運行記録計を導入)
- 一昨年(2013年10月)からクラウドタイプを導入(3G通信)
- リアルタイムの運行管理(動態管理)
 - ⇒車両の現在位置をPC画面上(マップ)で必要に応じて確認
 - ⇒営業所において渋滞情報を把握
 - ⇒荷主からの問合せに対応可能

②実感したメリット

- これまで煩雑であった手間が省け、管理面の効率化
- SDカードからのデータ取得に有する手間を削減
- 安全管理の徹底、強化
 - ⇒ドライブレコーダーの機能(連動型)により、事故の可能性が高い急減速(ヒヤリハット)を、静止画像が運行管理者に一括送信されてくることから、ドライバーへ電話で連絡を入れて安全確認を行っている
 - 重大なイベント(危険挙動)の場合は、SDカードを持ってくるよう指示しており、動画でドライバー本人と直接確認し指導している
 - 点数の良いドライバーに社報(安全運転ランキング)にて表彰している

【要望】

- 各機器メーカーに互換性がないので、データのプラットフォーム化をしてもらいたい。
- 解析ソフトを統一してほしい。

③今後の展開

■現状は1台あたりデジタコ1,000円、ドラレコ1,000円の通信コストが掛かっているが、今後、デジタコデータは常時クラウドではなく、入庫時などの車庫でWi-Fiを使用するなどしてコスト(通信費：300円程度/台)を抑えることも検討している。

動態管理はGPS機能を有したリアルタイムの必要性があるが、デジタコデータは配送が終わった入庫時に吸い上げることができればよい。

【安全運転ランキング】
(8月21日～9月20日) 対象車数：運行回数10回以上

順位	氏名	当月	前月	前々月	評価
1		95.29	92.79	94.79	A+
2		92.07	86.59	81.79	A+
3		91.71	87.82	93.12	A+
4		90.86	-	-	A+
5		89.71	82.46	89.41	A
6		88.46	79.53	80.72	A
7		86.12	85.88	87.22	A
8		85.18	81.68	85.50	A
9		84.68	87.80	81.60	A
10		84.59	82.56	88.43	A
11		83.93	83.39	88.16	A
12		83.27	80.95	82.40	A
13		80.00	84.48	79.64	A
平均		87.37	85.43	87.97	

経営理念「誠実と感謝の心で人づくり」
【ごあいさつ】
らん ランキングを発表します
かりと心より感謝申し上げます！
さて、本日9月30日までの全国秋の交通安全運動の期間中はいかがでしたか？夏休みは終わっているため日中に子供さんに遭遇する機会は減ったと思いますが、裏道や信号のない交差点で「ヒヤリ」としたことは無かったですでしょうか？交通安全運動は終了しますが、明日からは毎年恒例の6か月間のセーフティドライバーコンテストが始まります。5チームに分かれての参加ですが、全社一丸となって全員、全チームが無事故・無違反賞を達成できるように互いに声を掛けあい、頑張ってください！違反がない人は事故もないという統計が出ております。まずは年内3か月を一区切り、目標に進めていって

帰庫後にSDカードからデータを取り、実際の映像で前後の状況を見ながら、ドライバーと話をしました。

【事例調査】 事業者へのヒアリング(2社)

B社【業態：一般貨物自動車運送事業】

■従業員数：151名 ■保有車両数：113台 ■資本金：6,600万円

①運行管理の高度化に向けた取組

- 全車両にデジタル式運行記録計、ドライブレコーダー、無線を搭載(2001年～デジタル式運行記録計を導入)
 - 自社開発による運行管理システム
 - ・15分ごとに位置情報を取得し、始業点呼で登録した、従業員・トラック・配送コース等を関連付けて地図上に一覧表示(業務無線(MCA)を利用し通信コストを軽減、実務にマッチしたシステム構成)
 - ・免許証情報、事故履歴、安全運転指導等の履歴データをはじめ、データ全てドライバーIDで管理しており、運行記録計データと共に運転者ごとに管理している。
 - ・運転者IDをKeyに、運転者台帳、点呼記録、日報・勤怠管理のデータの全てがデータベースとして格納されている。
- デジタル式運行記録計データを用いた点数評価において、全ての映像(ドライブレコーダー)をチェックすることとしている。

②実感したメリット

- 集計システムでは、燃費、急減速・速度超過、勤怠データが集計可能、IDで管理しているデータは運転者や車両ごとに集計することが可能。

(参考)

出庫時：始業点呼時に、当日の運行情報(車両No・ETC・コース)を入力し、記録用のデジタル式運行記録計カードをドライバー自らが車内へ設置

帰庫時：就業点呼時に、デジタコカードから日報を作成(その都度、安全管理が可能)

【要望】

例えば、ヒヤリハット時の危険検知アラートシステムによる確認作業は、ドライバーへの負荷が大きくなり易いことから、次世代の取り組みには、ドライバーのオーバークオリティについても考慮してもらいたい。

③今後の展開

- 通信環境が整ってきた現在、ドライブレコーダーの映像を事務所でリアルタイムに確認できることに取り組んでいく。

